

(様式6)

宮脇 利幸 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Relationship among motor function, ADL disability, and psychological concerns in elderly people with locomotive disorders.
(運動器疾患を有する高齢者の運動機能, ADL障害, および心理的懸念の関係)
Journal of Orthopaedic Science 22(2) : (in press)
Toshiyuki Miyawaki, Keigo Kumamoto, Kaori Shimoda, Fusae Tozato,
Tsutomu Iwaya

論文の要旨及び判定理由

運動器疾患を有する高齢者において、日常生活動作(ADL)障害と心理的懸念との因果関係は十分に議論されていない。著者らは、運動器疾患を有する高齢者の運動機能、ADL 障害、そして抑うつ感情などの心理的懸念の間の因果関係を調査した。全国5カ所の整形外科および併設介護施設を受診した 65 歳以上の運動器疾患を有する者 314 名を対象とした。運動器疾患を有する高齢者の運動機能、ADL および抑うつ感情などの心理的懸念がどのように影響し合うかといった因果関係に視点を絞り、共分散構造分析の統計手法を用いた。モデル1:「運動機能はADLに影響を及ぼし、ADL の低下は心理的懸念に影響を及ぼす」と、モデル 2:「運動機能は心理的懸念に影響を及ぼし、心理的懸念は ADL に影響を及ぼす」という、ふたつのモデルを仮定し適合性を検証した。その結果、モデル1について良好な適合指標を得られた。本研究の結果、運動器疾患を有した高齢者において「運動機能の低下は、ADL の低下を介して抑うつ感情などの心理的懸念に影響を及ぼす」という因果関係がえられた。本研究は、ADL 障害と心理的懸念の構成要素を特定し、またADL 障害が心理的懸念に寄与する程度を評価することがロコモティブシンドロームを予防するために重要であることを示唆するものであり、リハビリテーションの方法論に新たな貢献をするものであるため、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

平成 29 年 1 月 26 日

審査委員

主査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 菊地千一郎 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 渡邊 秀臣 印

副査 群馬大学大学院教授
リハビリテーション学講座 白田 滋 印

参考論文

1. 「運動器疾患を有する高齢者の気分の変調と運動・生活機能との関連性」
KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 65: 127-140, 2015
宮脇 利幸、外里富佐江、岩谷 力